

船舶事故調査報告書

令和元年10月23日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	浸水
発生日時	令和元年5月26日 12時00分ごろ
発生場所	長崎県佐世保港第3区 佐世保航路第3号灯標から真方位253°800m付近 (概位 北緯33°06.6′ 東経129°42.2′)
事故の概要	プレジャーボート <sup>だいき</sup> 大喜は、錨泊中、機関室に浸水した。
事故調査の経過	令和元年5月28日、主管調査官（長崎事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	プレジャーボート 大喜、5トン未満（長さ7.11m） 240-22764長崎、個人所有 ディーゼル機関2基、4サイクル、出力110kW（/基）、回転数 毎分3,300、4気筒、ボア102mm、使用燃料軽油
乗組員等に関する情報	船長、一級小型
負傷者	なし
損傷	船内外機に濡損、右舷機ドライブユニットのベローズに亀裂
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 西南西、風力 3、視界 良好 海象：海上 平穏
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、友人1人を乗せ、釣りの目的で錨泊中、気が付くと喫水が深くなっていたので、船長が機関室を確認したところ、機関室床下から約50cmまで海水が滞留していた。</p> <p>本船は、ビルジポンプで海水を排出した後、主機を始動することができなかったので、船長が運航不能と判断して118番通報し、来援した巡視艇にえい航されて佐世保港の造船所に到着した。</p> <p>本船は、船内外機が2基搭載され、本事故後、造船所及び船長により、船体に損傷がなかったものの、‘右舷機ドライブユニットのベローズ（ゴム製蛇腹管）’（以下「本件ベローズ」という。）に亀裂が発見された。</p> <p>本件ベローズは、機関製造会社の推奨交換間隔が3年であり、本事故の約4年前、機関修理業者によって交換されていた。</p>
分析	本船は、ドライブユニットの点検が不十分な状況下、錨泊中、経年劣化により本件ベローズに亀裂を生じたことから、機関室に海水が浸入したものと考えられる。
原因	本事故は、本船が、ドライブユニットの点検が不十分な状況下、錨泊中、経年劣化により本件ベローズに亀裂を生じたため、機関室に海水が浸入したものと考えられる。
再発防止策	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考え

	<p>られる。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ドライブユニットのベローズを定期的に点検し、適切な時期に交換すること。</li></ul>
--	--